

自主防災組織等の地域防災の人材育成に関する検討会（第4回） 議事概要

1 日時 平成31年3月28日（木） 13:30～15:30

2 場所 ホテルルポール麹町 3階「アクアマリン」

3 出席者

【委員】（座長を除き50音順）

室崎益輝座長、黒田洋司委員、阪本真由美委員、西藤公司委員

※吉川肇子委員、永田宏和委員、宗片恵美子委員は欠席（永田委員の代理として小倉丈佳氏出席）

【オブザーバー】

公益財団法人日本消防協会

4 概要

（1）開会

（2）議事

- ① 自主防災組織のリーダーを育成するための教育・訓練カリキュラム（素案）について事務局より、資料1に基づき説明の後、意見交換。概要は以下のとおり。

○資料1「自主防災組織のリーダーを育成するための研修・訓練カリキュラム（案）」について

- よく整理できてはいるが、まだ中項目が多いため類似した項目をまとめてはどうか。例えば大項目「自主防災組織概論」の中項目「地域の防災計画等の立案と見直し（No.10）」と「地区防災計画の策定（No.11、12）」、大項目「各災害の基礎知識」の中項目「過去の災害事例（No.29）」と「災害伝承（No.30～32）」、大項目「災害に対する備え」の中項目「我が家の安全対策（No.44）」と「我が家の耐震対策（No.45）」を見直してはどうか。もし分けられないのであれば、明確に違った項目名にすべき。
- 大項目「災害に強いまちづくり」の中項目「災害に強いまちづくり（No.42）」の内容も重複のないよう整理した方がよい。
- 大項目「災害発生に備えた体制の構築」の中項目「災害ボランティアの受援体制づくり（No.61,62）」については、支援と受援の両方を入れるべきではないか。
- 少なくともボランティアを受け入れるだけではないことは書くべき。課題に抜け漏れない

ようにしようとすると項目が増えていくため、メリハリをつけて整理する必要がある。

- 「災害復旧・復興」に大項目「施設、設備の応急復旧活動 (No.85、86)」とあるが、住まいの確保についても学ぶことが分かるよう、大項目を「住まいと施設、設備の応急復旧活動」に変更してはどうか。
- 全体的に言葉遣いが難しい。地域住民向けにやさしい言葉遣いなるよう工夫が必要。
- 項目名は漢字が多すぎるため項目名を見て何を学ぶのかが分かりにくく、改善が必要。特に専門用語は分かりやすくする必要がある。
- 近年の災害で問題になっている「災害関連死」については、自治会の方々に知っておいていただきたい重要な項目であるため、中項目「避難所運営 (No.75、76)」、「在宅避難者対応 (No.77、78)」の下に、中項目「災害関連死」を追加してはどうか。
- 「災害復旧・復興」は住民の取り組みの順番を考慮することとし、中項目「災害廃棄物の処理 (No.87、88)」を災害応急対応の大項目「被災生活への対応」の中項目「保健・環境衛生の確保 (No.81、82)」の下に移動して、災害復旧・復興では被災した場合どういった支援があるかを全体的に知ったうえで住まいの確保や復興について学ぶといった流れに整理してはどうか。
- 資料1別添(別紙1)「カリキュラムの体系図」を「教育・訓練カリキュラム」の前段に入れると、資料がより理解しやすくなるのではないか。
- カリキュラムの「大大項目」「大項目」「中項目」とプログラムの関連についても整理し、その考え方を「教育・訓練カリキュラム」の冒頭に記述するとよい。
- 初めての防災に取り組む自主防災組織リーダーが「教育・訓練カリキュラム」を読むだけでイメージをつかむことができ、学習項目が選びやすくなるよう、「地域間でコミュニティをつなぎたいときはこれ」、「自助力をあげたいときはこれ」など、リーダーや地域が悩んでいる視点で補足説明する資料があるとよい。
- 地域からは取組事例を紹介してほしいといった要望が多いため、参考となる事例が閲覧できるよう、積極的にその情報源を掲載するとよい。

- ハザードマップや過去の災害事例などの素材の入手先についても掲載するとよい。
- 資料1別添（別紙1）「カリキュラムの体系図」について
- 「カリキュラムの体系図」の「基礎」にある大項目「防災のしくみ」や「地域の災害危険性と被害想定」などは、「活動を行う中で事後的に学習することが望まれる専門的事項」の方（上の方）に位置付けられているが、下方に位置付けられてもよいのではないか。
 - 地域についての基礎知識は自分達で学べるが、「災害に対する基礎知識」は特殊な知識であり自分達だけで学習するのは難しい。自分達だけで実施できることと、教材を使ってできることで整理してはどうか。
- 事務局から、現在の体系図は上半分の「災害への対応」については矢印を設けず、学習項目の順番通りに掲載していることや、地域を理解することは基本であるといった考えと従来型の研修ではまず各災害の基礎知識などから学んでいるためそこへの問題意識もあることなど、検討にあたっての考え等について説明。
- 「地域を理解する」というのはたいへんよい。その中に過去の災害事例や地域のハザードマップなど災害の要素を入れて「地域を理解する」とし、「防災のしくみ」については行政の窓口機関を理解するとか、メールに登録しましょうなどの要素をうまく混ぜて整理することもできる。
 - 基礎的な知識を踏まえて、それを実践する・演習する項目が上の方にあるとよいのではないか。
 - 体系図はプログラムと関係してくる。実際の研修では、時間配分を考えながら学習項目の内容を圧縮して学ぶといったことを考えると、項目としては現在の形で提示しておき、「教育・訓練カリキュラム」の冒頭に体系図の見方等について説明してはどうか。
 - 大項目「災害に強いまちづくり」の内容は他の項目にも書いてあるため、この大項目はなくしてもよいのではないか。
 - 「災害予防」の大項目「防災訓練・講習会の企画運営」は、体制の構築があり、それを踏まえて訓練があるべき。大項目「災害発生に備えた体制の構築」の後に移動してはどうか。

○ 今後の進め方について

- 次年度は、「教育・訓練カリキュラム（素案）」の改善を図っていくと考えればよいか。

事務局から、次年度実施予定の次回検討会では、本日のご意見を踏まえての「教育・訓練カリキュラムの公表案」及び「研修プログラム（案）」を提示し、修正したうえで公表の予定。並行して教材についての議論を進めることとし、次年度末に公表する予定である旨を説明。

② 自主防災組織のリーダー育成研修プログラム例（素案）について

事務局より、資料2に基づき説明の後、意見交換。概要は以下のとおり。

- 要配慮者への支援も含めて避難所運営は行政として限界があり、自主防災組織に運営していただく必要がある。それらについて学ぶプログラムがあるとよい。
- プログラムとしては多様な選択肢が必要ではないか。現在のプログラムは、基礎編と個別の課題とを組み合わせているが、基礎編は基礎編でしっかりと学ぶこととし、他の項目はアラカルト方式で、課題別に研修を行う方がよいのではないか。
- （基礎編をなくすこともあり得るのかという事務局からの質問に対して）
基礎編をなくすこともあり得る。住民は当面の課題への関心が強いため、長時間かけて基礎編だけを学習するよりも、具体的な課題について学習した方がよいかもしれない。
- 研修後に地域でどう展開できるのかが大事。座学は短めにして、研修と地域での実践を組み合わせる考えてはどうか。映像の利用も考えるとよい。女性や障害をお持ちの方も受講しやすくなるよう、ICTの活用も考えられる。一部映像を使って自宅で勉強してから、研修を受講し、その後地域で実践するといった展開も考えられる。
- 現在のプログラム（案）は大変興味深い。自治体職員がプログラムを見てやってみたいと思うようなものができるとうい。また、1、2年の輪番制で変わっていくリーダーが多いことを踏まえて、そのようなリーダーが研修を受講し、なんらかの爪痕を残して次のリーダーにつないでいくといったことを狙ったプログラムとすべき。
- 研修の具体イメージが持てるよう、現在のプログラム（案）に、研修参加者のイメージや人数、属性、土砂災害に関係する地域に限定する等の情報を盛り込むとよい。

- これまでの議論にあったように自主防災組織だけでなく他の主体も大事。地域のステークホルダーになる機関・団体も参加して研修を受けるプログラムも提示するとよい。
- リーダー研修についても、初心者研修、アドバンス研修、専門別研修、フォローアップ研修など多様な研修を組み合わせるという方法もある。その中に、他組織との研修を組み込むこともできる。研修そのものの編成についても今後検討が必要。
- 人材育成といった視点で考えると、座学だけで終わらせるのではなく、研修後に地域で実践した後もフォローアップする研修を行うなど、研修を複数組み合わせることも検討してはどうか。
- 時間を短くした研修もできる、2日間でもできる、子どもが参加する研修もできるなど、幅広いバリエーションがあるとよい。プログラムのバリエーションを増やすというよりは、時間や受講対象などの切り口で、いろいろな使い方ができるプログラムにするとよい。

③ (3) 研修プログラム例(素案)に対応する教材作成の進め方について(案)

事務局より、資料3に基づき説明の後、意見交換。概要は以下のとおり。

- すべての教材を作成するのは大変な作業になるため、既にある教材を活用するなど考える必要がある。
- 災害事例集やビデオなどの補助教材があるとよい。初級編はビデオを見せる方がよいかもしれない。
- 防災運動会を地元で企画・実施する方法など、研修後に地域で実践するための参考となる内容を学べるとよい。
- 演習系の教材は、次年度の中でテーマを絞ってしっかりと考えて開発する必要がある。
- 事例集を作るとよい。

事務局から、「実質的に活動がなかなか行われていないような自主防災組織の活性化のために教材を作成すると言うことが出発点である」ことを踏まえ、研修から持ち帰って地域で活かしていただける研修にするのがよいと考えている旨を説明。

- 避難所運営を学べる教材もあるとよい。研修後に地域でも使える教材があるとよい。

検討会を終了するにあたり事務局から、本日の議論を踏まえると、本日の資料のようなものではなく、避難所運営も意識し、かつ、1日をかけて研修を行うものではなく短時間で実施できる研修にする方向でプログラムを再検討する方向で考えているとの認識を伝えた。

また、後日、教材作成の対象とするものなどお聞きしたい点を明確にして問合せさせていただくので引き続きご協力をお願いしたい旨を伝えた。

(3) その他

- 新年度に、次回検討会の日程調整を行う。

以上